

# かねざわ 第51号

平成26(2014)年11月

- 来年度の学習会予定が決まりました (P2)
- 「ふれあいの道歩こう会」が通算 100 回を記録しました。(P25)
- 「土地宝典」から金沢を眺めると… (P31)
- 運営委員等を募集しています (P4)

## 目次

### 運営委員会からのお知らせ

- 2 2015 年度学習会予定
- 3 継続会員の手続きについて
- 4 「公開歴史講座」参加募集
- 4 運営委員会および常設3委員会委員を募集

### 事典編集委員会報告

- 5 第2・第3回編集会議より

### 学習会

学習会の概要とアンケート結果

- 6 第4回「動乱の金沢～南北朝から戦国時代まで～」
- 8 第5回「富岡の歴史と慶珊寺」
- 11 第6回 探訪 「富岡の今昔を巡る」

### 分科会からの便り

- 14 「懐かしの映画」鑑賞録 No.16 佐藤 晃
- 18 「浮雲俳句会」抄録 No.27 北野 清市
- 21 「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 No.7 小俣 悦男

- 25 「ふれあいの道歩こう会」100回達成

宮原 宏至

- 27 「古文書を読む会」からのたより(5)

真田 雅行

- 30 パソコン何でも相談室【2】

林 洋

### 歴史研究

- 31 「土地宝典」から金沢区を眺める

中島 勇

### 行事予定

- 34 12月～2015年2月



## 金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ:<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル:yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

## 2015 年度学習会予定

来年度（2015 年）の学習会予定を下の表の通りに企画しました。

### ○ 定例学習会

	日時・会場	テ ー マ	講 師
1	5月9日(土) 9:30~12:00 能見台地区センター	“わ”の会定期総会 9:30~10:30	
		「私たちの山歩き」を歴史を 絡めて伝えます 10:40~12:00	「ふれあいの道歩こう会」 代表 小俣 悦男 氏
2	6月13日(土) 13:30~16:00 金沢地区センター	金沢北条氏  顕時から貞顕	東洋大学 講師  細川 重男 氏
3	7月11日(土) 13:30~16:00 能見台地区センター	金沢北条氏  貞顕から貞将	東洋大学 講師  細川 重男 氏
4	8月 (日時未定) 県立金沢文庫	【訪問講座】  未定	金沢文庫 学芸員  未定
5	9月12日(土) 9:30~12:00 金沢地区センター	中先代の乱と鎌倉・金沢	中世内乱研究会 会長  鈴木 由美 氏
6	10月9日(金) (集合場所・時間未定)	【探訪】  称名寺を中心に	探訪実行委員会
7	11月14日(土) 9:30~12:00 能見台地区センター	金沢八景と中国古典文化	県立国際言語文化 アカデミア 教授 新谷 雅樹 氏

### ○ 公開歴史講座

	日時・会場	テ ー マ	講 師
1	平成28年(2016) 2月13日(土) 9:30~12:00 能見台地区センター	元寇と金沢	歴史研究家  盛本 昌広 氏

5月の総会後は、“わ”の会の前代表であり、分科会「ふれあいの道歩こう会」の代表である小俣悦男氏による講演です。『私たちの山歩き』を歴史を絡めて伝えます」というタイトルにもあるように、自分たちが歩いてきた関東周辺の山々の素晴らしい風景写真をスライドで説明し、そこで触れた歴史を感じさせる事象にも解説は及びます。

6月、7月は「金沢北条氏」で、今年度の6月と7月の続きです。講師も同じ細川重男氏で、6月が「顕時から貞顕」、7月が「貞顕から貞将」です。今年度は実泰から実時の金沢北条氏の前半を講義しましたが、いよいよ金沢北条氏の隆盛期、そして鎌倉幕府滅亡とともに金沢北条氏が滅びるまでを解説します。

8月は恒例の県立金沢文庫にて、展示物に合わせた文庫学芸員による講座を考えております。

9月は当会初めての講師である鈴木由美氏による「中先代の乱と鎌倉・金沢」です。7月の鎌倉幕府滅亡のあとのテーマとしてはうっ

てつけではないでしょうか。鈴木氏は若手の女性研究者で、特に「中先代の乱」には造詣が深い方です。八王子のほうにお住まいなのに、朝9時半開始の講座を苦ともしない活発な講義が楽しみです。

10月は探訪です。称名寺周辺を徹底的にディープに探りたいと考えております。例年通り実行委員会を設置して、きめ細かい歴史探訪になるよう企画します。

11月は「金沢八景と中国古典文化」です。講師はまたまた当会初登場の県立国際言語文化アカデミア教授の新谷雅樹氏です。「金沢八景」は多くの詩題・画題になり、「琵琶島弁才天」の詩碑にも触れて、いままでの「八景」の見方がさらに深まることでしょう。

2月の公開歴史講座は2年続きで当会員ファンの多い盛本昌広氏の登壇で、テーマは「元寇と金沢」です。鎌倉幕府滅亡の大きな原因のひとつが「元寇」だったことは定説です。この時期、鎌倉そして金沢にはどのような激震が走ったかを知ることが出来ると思います。

## 継続会員の手続きについて

平成27年度への継続会員の手续については、9月13日の第5回学習会にて案内ビラを配布し、申込みの受付を開始しております。また、11月8日の第7回学習会でも再度ご案内を行い、会場での受付を行います。

その後の受付は下記の要領で行います。継続を希望されながら、まだ手続きを済まされていない方はお忘れなき様に期日までにお願ひ致します。期日が過ぎますと欠員分について市民からの新規会員の募集を行いますのでご注意下さい。

### 継続会員申込み要領 (11月の学習会以後の場合)

☆ 締 切：12月3日(水)

☆ 会 費：3000円

☆ 振込口座：横浜銀行 金沢支店(店番号351) 普通預金 口座番号 1324219

名義人 金沢区生涯学習わの会 代表 今井 鎮夫(イマイ シズオ)

\*勝手ながら、会費振込みを以って申込を頂いたものとさせていただきます。



## 「公開歴史講座」参加募集

本年度の「公開歴史講座」のテーマは「太田道灌と金沢」で、講師は毎回好評の歴史研究家・盛本昌広氏です。下記の要領で開催いたしますので、多くの会員のご聴講をお願い申し上げます。

### 〈実施・募集要項〉

- 日 時：平成27年2月14日（土） 9:30～12:00（開場 9:15）
- 会 場：能見台地区センター
- テー マ：「太田道灌と金沢」
- 内 容：江戸城を築いた太田道灌は、龍華寺に不動像を寄進したり、称名寺にあった梅を江戸城に移植するなど金沢区と関わりがありました。それらを中心に太田道灌の動向を明らかにします。
- 講 師：歴史研究家 盛本 昌広 氏
- 参 加 者：“わ”の会会員、一般
- 会 費：“わ”の会会員 300円、一般 500円
- 受付・締切：会員の優先受付は11月8日（土）から12月4日（木）まで  
（その後、一般の募集を開始し、会員優先はなくなり、一般と合わせて先着順となります）
- 申 込：① 11月の学習会での申込  
② その後は、電話またはメールで  
電 話 045-784-6238（運営委員 大門）  
メー ル yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

## 運営委員および常設3委員会の委員を募集

今年度の定期学習会も、11月の「古文書（古地図）から見た泥亀新田開発」で終了いたします。運営委員会では、来年度（平成27年度）の学習会企画を進めておりますが、現有勢力8名の委員では、手が足りません。皆様の積極的な参加を期待します。

現在、運営委員会の下に常設の3委員会が

あります。そのうちで、会報編集委員会とホームページ委員会にはメンバー構成に課題があります。いずれの委員会も広報担当の運営委員と分科会からの委員のみでの構成が続いていることで、視野を広く保ち続けるために皆様の積極的な参加を切望しています。これに比較すると事典編集委員会にはかなり広く皆様の参

加を頂戴しています。しかし、皆様のニーズにピタリと合った姿に事典を育ててゆくためには皆様のさらなる積極的な参加を必要としています。

当会は金沢区では“実力派”と内外ともに認められていると思います。それもこれもいまままで16年間の諸先輩の尽力によるものだと感

謝する次第ですが、今後もこの力を維持、発展させていくためには、会員皆様の自主的な会への参加が不可欠です。あまり深くお考えにならず、運営委員、そして会報編集委員、ホームページ委員、事典編集委員になってくださるようお願い申し上げます。

## 事典編集委員会報告

# 第2・第3回編集会議より

事典編集の基本方針は、すでに会報50号に記載した通りで下記の6箇条です（5月28日の第1回編集会議で承認）。

- ① メインタイトルを『第3版 かねざわの歴史事典』とする。
- ② 発行期日を平成30年（2018）5月に設定する。
- ③ 項目選定の範囲は平成12年（2000年、20世紀末）までとする。
- ④ ロードマップ  
平成26年：重版のときに先送りした項目の検討と結論を得る。  
平成27年：項目の訂正、追加、削除及び付属資料の見直し。写真、絵図の検討。  
平成28年：前年に決定した項目、付属資料の執筆。DVD化の検討。  
平成29年：項目、付属資料の執筆と原稿のチェック。体裁、部数、頒価の検討。  
平成30年：総合チェック作業。印刷作業。5月完成。
- ⑤ 編集会議日は奇数月の第4土曜日、9：

30～12：30とする。

- ⑥ 『新版 かねざわの歴史事典』の編集方針並びに記載内容を基礎とし、尊重する。

会報50号での報告以後、2回の編集会議を開催しました。第2回編集会議（7月26日）と第3回編集会議（9月27日）において、上記基本方針④ロードマップの第1項目である平成26年事案を検討しました。その結果、修正を必要とする部分が14箇所見付き、修正案も定まりました。会員の皆様への修正案の公表については、今後さらに見直すこともありうり、直ちに公表を要するほどの修正内容ではないという観点からしばらく差し控えることにしました。なお、別作業のグループで439項目の点検が行われています。

第4回編集会議は11月22日に開催されます。ご意見等、随時受け付けておりますのでよろしくお願いいたします。

## 学習会の概要とアンケート結果

### 第4回 「動乱の金沢～南北朝から戦国時代まで～」

開催日：平成26年8月2日（土）

会場：県立金沢文庫 会議室

講師：県立金沢文庫 西岡 芳文 氏

出席：88名（ビジター なし） 会員出席率 69.8%

#### 【概要】

元弘3年（1333）鎌倉幕府が滅亡し、後醍醐天皇による建武の新政により、安定するかと思われた。しかし、その後も朝廷と武家の対立、更には室町幕府と鎌倉公方の権力争いという凶式の中で長い動乱が続いた。

この動乱の時代にあつて、称名寺もまたその荒波の影響を受けざるをえなかった。

称名寺は、文應元年（1260）亡母の菩提を弔うための北条家の私寺として、金沢北条氏の実時により建立された。その後、文永4年（1267）下野薬師寺から審海を招聘して開山、律院となり弘安7年（1284）に「称名寺条々規式」の交付を受けて公的寺院としての地位を得たが、その栄枯は北条氏の権勢を反映するものであり、伽藍の整備が完成した元亨3年（1323）から北条氏が滅亡するまでの10年間は、金沢文庫も含めて称名寺の全盛期であった。

このような称名寺の位置付けからして、鎌倉幕府を滅ぼした建武政権としては、その存続は認めがたいものであり、寺領の没収を含む措置がとられることも当然の流れであった。幕府滅亡の一ヶ月後には、金沢文庫の所有する「内外典・和漢」の総目録の提出という指令が出されているが、うち続く内乱の中ではその指令も不発に終わり、また、室町幕府と金沢北条氏とが

血縁関係にあつたこともあり、文庫は称名寺の管理下におかれることで存続がはかられた。また、建武3年（1336）には、足利尊氏より称名寺に対する安堵状が発せられ、存亡の危機を免れることができたのである。

存亡の危機を乗り越えた称名寺は、二代長老 劔阿をはじめ有力な高僧が長老に就任して、寺領の維持・確保を図るとともに、寺の運営維持のための自浄的な内部組織体制を整備して、整然とした職務執行を実現した。その組織体制は「差定」と呼ばれる職務分担表として残されている。

一方、相次ぐ動乱による政治的権力の空白の時代にあつて、金沢・六浦の地に於いては勸進の世紀と呼ぶべき、住人の互助活動が活発に行われていた。そのひとつが文和2年（1353）に行われた瀬戸橋の再建供養の表白である。

北条貞顕により建設された瀬戸橋は、飛躍的な交通事情の改善を果たし瀬戸地域の発展をもたらしていたが、老朽化が激しく進み通行不能となつても相次ぐ戦乱のため放置されていた。それを、独力で復興再建したのは妙法であった。再建供養には称名寺の長老実真以下二十名の僧侶が出仕し、十曲の舞楽が演じられた。

また、昭和30年に発見された大軸絵「三千

仏図」は、貞和6年（1350）海岸尼寺に納められたが、その軸内に書き残されている結縁衆名には六浦の女郎衆と思われる源氏名が多数記されている。

そのほか、上行寺の牛馬六畜供養の石造宝篋印塔、六浦蔵福寺の涅槃図、或いは瀬戸神社の梵鐘など数多くの勸進の記録が残されている。

こうしたなか、室町幕府と鎌倉公方の権力争いはついに永享の乱へとつながり、公方足利持氏は敗北して自害したことから、一時鎌倉公方は不在となった。その後文安4年（1447）持氏の遺児万寿王丸が信濃から鎌倉に戻り公方足利成氏を名乗った。しかし、これと対立関

係にあった山内・扇谷の両上杉勢との抗争は広く関東一円にまで波及し、成氏は古河に逃れて古河公方と呼ばれた。

この後関東では、公方と両上杉・諸大名を巻き込んだ戦乱の時代が続く。そうして鎌倉もまた東国における権力の中心としての役割を失っていった。

こうした混乱の時代に発生した明応の大地震は、四国から房総に至る太平洋岸に壊滅的な被害をもたらし、中世の終焉を告げるとともに、新しい戦国の時代の幕開けともなったのである。（田中記）

### 【アンケート結果】

たいへん良かった：14名 良かった：13名 普通：4名 つまらなかった：1名

### 【コメント】

- ・中世の動乱の流れが良く理解できました(6)
- ・称名寺がどうして生き残ったのかがよく分かりました(2)
- ・展示見学に大変参考になりました(1)
- ・古文書の解説がわかりやすかった(2)
- ・鎌倉幕府滅亡後の南北朝時代と  
その直後の金沢と称名寺の歴史がよくわかりました(3)
- ・詳しい説明に、興味深く拝聴しました(4)
- ・中世の歴史博物館と地域との関連がわかり良かったです(1)
- ・当時の時代背景、称名寺の興亡、歴代住職の事業などが理解できました(1)
- ・金沢の歴史変遷の空白が多少わかりました(2)
- ・話し方がていねいで、理解できましたが  
少々難しかった(1)
- ・時間が足りなかったように思われます(1)
- ・もっとポイントを絞ってほしかった(1)
- ・もう少し系統だった資料が  
あるとわかりやすかった(1)
- ・称名寺を中心とした話になって、  
「動乱の金沢」のテーマがよくわからなかった(1)
- ・レジュメの判読が困難だった(1)



西岡 芳文 氏



「動乱の金沢」案内板

## 第5回 「富岡の歴史と慶珊寺」

開催日：平成26年9月13日（土）

会場：金沢地区センター 大会議室

講師：慶珊寺住職 佐伯 隆定 氏

出席：100名（ビジター 1名） 会員出席率 79.3%

### 【概要】

今回は慶珊寺住職佐伯隆定氏による「富岡の歴史と慶珊寺」の講演を受講しました。

講演の内容は、富岡史初見およびそれに関わる歴史的資料について、慶珊寺の建立および建立者のプロフィール、ペリー来航時の事柄、そして富岡の最大の悲劇といわれる富岡の空襲についてであった。

富岡史初見は14世紀に「富岡」という地名はあった。それは「横浜」という地名より早い。

まずは、「瀬戸橋造営棟別銭注文案(金沢文庫古文書)」である。当時の瀬戸は干満の差が激しく、舟には危険なところであり、橋梁を造るのも大変だった。そんなことでも北条氏は橋を造りたかった。そのため橋を造るために税を徴収した。その棟別銭に「富岡」という地名が残っている(鎌倉時代)。

次に「慶珊寺蔵大般若経奥書」である。この大般若経奥書には願意(願い事)、氏名等が記載されている。大般若経自体は経を版木に彫り、写して造られたものであり、その大般若経が富岡八幡宮に寄進されている。その当初のもの82巻(全600巻)が残っている。そんなことで1382年にはすでに富岡八幡宮があった。

そして、「富岡やぐら」である。それは昭和47年頃、横浜市の埋め立て事業において鳥浜への国道16号線から連絡道路を造るための造成時に偶然発見された。事業を遅滞なく進めるため、内々の調査で記録だけを残した。そのやぐらからの遺物は三殿台に納められている。そのやぐらはお墓であっただろう。五輪塔の類やお骨が出土しているということは墓を造る

だけの財力がある人物、武将が住んでいたのだろう。

また、「応長の津波」(伝承)であるが、このことは地震年表にも載っていない。そして津波による長浜千軒流出のことであるが、当時の集落・生活の単位は100~200軒がせいぜいであり、1000軒あったとは考えられず、大げさに表現したものであろう。

慶珊寺成り立ちについて、元々、慶珊寺は豊島明重氏が両親の菩提を弔うために建立したものである。慶珊寺の名は明重氏の母-瑚琳慶珊大姉、父-花翁常蓮居士の戒名より花翁山慶珊寺としたものである。豊島氏は石神井を本拠地にした豪族であったが、江戸氏と戦い、亡びた。その後、戦国時代の末期に布川という所に生き残り、豊島氏が復活、徳川氏から富岡の地に、家康の旗本として1700石(中堅どころ)を拝領し、相應の活躍をしたようである(バス停「宮の前」付近に住んでいたようだ)。そして、明重氏は寛永5年(1628年)に老中井上正就氏との間での縁組に係わる問題で井上氏に殿中で刃傷に及び、本人は自刃した(三大刃傷事件の1番目の事件)。そのことにより、息子も切腹をさせられ、慶珊寺はスポンサーを失った。ただし、息女は沙汰なしであったのでその後も生き延びた。

富岡みたいな小さな町で歴史に出ることはないともみていると、そんなことはなく、それは「ペリー来航」である。ペリー来航は1853年6月3日、観音崎沖に4隻の船が現れた。三崎の漁師が浦賀の奉行に連絡し、そのことを幕

府が知ったのは6月4日の夜のことであった。幕府は日本の外国との交渉口は長崎であるので、「長崎へ行け」と再三、早馬を出して交渉した。結局、ペリー側の開港の要求に、やむなく「来年まで日本の態度を決めておく」と返答。ペリーは1854年1月に再来航(本国には帰らず、沖縄あたりで停泊していたか)。この時点で彼らは根岸湾(杉田～本牧)=ミシシッピーベイ、小柴沖=アメリカンコーン、猿島=ペリーアイランド等々と呼んでいたようだ。この時の交渉でも、交渉地をどこにするか難航した。ペリー側は首都でやるのが当たり前であるので江戸でと、一方、日本は江戸では難色を示し、相変わらず長崎でと主張。結局、決まらず、香山栄左衛門という人が表役になり、アダムス参謀長等と交渉。そんなこんなの中、ペリー側は江戸に行くということで、それに先立ち「ワシントン記念日」あたるということで100発の祝砲をあげ、近村の人々を震え上がらせた。そして小柴沖から江戸に向かった。日本側は香山に命じ、これを追わせたが、富岡沖は波が荒く、航行できず、香山は富岡村に宿泊した。香山は翌早朝、陸路、本牧へ。停泊していたペリーを、やむなく横浜村に案内、横浜が交渉地となった。結局はアメリカの主張がほぼ通り、1854年3月末に「日米和親条約(神奈川条約)」がまとまり、下田、函館の開港等となった。交渉後、ペリーは羽田沖を周り、小柴沖に戻り、開国という目的を達した艦隊7隻を解散した。日本を去るにあたり、森、田園、豊かな緑、田舎の美しさ等々、感嘆たる思いで帰ったようだ。その間、富岡の人々は海、浜に出られなかった。が、人々は小舟だけでなく小柴の山等にもが押し寄せ、小柴は賑わった。そのようなことで、

小柴沖は日本の運命を決した所である。4年後、ハリスが来日、「日米修好通商条約(下田条約)」が結ばれる。この条約は不平等条約だったので、平等にしようと井上馨が活躍する(明治10年代)。

明治の富岡は、ヘボンが明治8、9年(はっきりしていない)に避暑に富岡を訪れ、慶珊寺を宿泊所として宿泊している。明治7年頃から、避暑地として富岡に外国人が続々やって来て、富岡の人々は経済的に潤った。明治16～25年には富岡に政府要人(高官)が別荘を構えた。伊藤博文は家には凝らず、女性に関心があったみたい。富岡に居た時に金玉均(韓国の革命家)が博文の屋敷(富岡バス停付近)に来て、会いたい旨を申し入れたが、博文は会わないといった。金は3日3晩待ったが、結局博文は会わなかった。その金を富岡の住人が助けた。金は韓国の近代化について日本の援助がほしかったみたいであった。金はその後日本国中を周って同志を募ったが、結局はダメだった。その後中国で暗殺された。

近代の富岡の最大の悲劇は昭和20年6月10日の富岡の空襲である。当時、佐伯(住職)氏は小学6年生で中山に疎開しており、そこで5月29日の横浜大空襲をみた。その後電車も回復したので、電車、バスを乗り継ぎいで、6月9日午後に富岡に一時帰宅していた。翌10日に富岡に空襲があり、富岡駅付近にも爆弾が投下され、駅下の隧道、トンネルに避難した乗客らが猛火と烈風を浴びて、多数のけが人と死者が出た。慶珊寺にも戸板に乗せられて、40体の遺体が送られてきた。これが富岡の悲劇の日である。(柴崎 記)

#### 【アンケート結果】

たいへん良かった：28名 良かった：11名 普通：1名 つまらなかった：0名

## 【コメント】

- 富岡町の鎌倉時代初見や豊島明重と慶珊寺の関係等、富岡の歴史が詳しく分かった(1 1)
- ペリー来航時の富岡近辺の様子や明治時代の賑わい等興味深く拝聴した(4)
- 富岡空襲の、生の話がとても良かった(8)
- 教師の経験を生かした話が良かった(1)
- 身近な富岡について、住職のじかな話が聞けて良かった(5)
- 体験的な講話で、内容や話しぶりとも大変興味深かった(3)
- 良く整理された形で聞くことができ、大変すばらしかった(3)
- 幅広く富岡の歴史を知ることができ、充実した時間を持てた(2)
- 富岡が歴史の中心に出てくるのが案外に多く、興味深く聴いた(1)
- 金玉均のことなど、知られていない史実が紹介された(2)
- 全体的に楽しく聴くことができ、話し方が特に良かった(1)
- 話は分かりやすかったが、声が小さかった(1)
- ポイントが決まらない富岡の歴史の話になった(1)



佐伯 隆定 氏



## 第6回学習会 探訪 「富岡の今昔を巡る」

開催日：2014年10月10日(金)

集 合：南部市場管理棟2階会議室（シーサイドライン南部市場駅下車徒歩3分）

ガイド：探訪実行委員会

コース：南部市場（場内）⇒旧海軍飛行艇格納庫⇒宝龍寺鼻⇒長昌寺（墓の地藏、芋観音、直木三十五の墓）⇒孫文上陸記念碑⇒慶珊寺⇒米軍富岡空襲犠牲者供養塔⇒直木三十五文学碑⇒豊島明重父子供養塔⇒十二天 松方正義別荘跡⇒富岡尋常小学校跡地碑⇒海水浴発祥の地碑⇒漁業記念碑⇒金波楼跡⇒富岡八幡宮⇒日本国憲法起草の地碑⇒西宮神社⇒解散（富岡八幡公園）

出 席：73名（ビジター2名） 会員の出席率 56.3%

### 概要

今年は『富岡の今昔を巡る』をテーマに、第1点は皆様の食への思いを満たす出発点の南部市場、第2点は周りの神社・仏閣・名所・旧跡を訪ね近くは明治時代、遠くは江戸時代を遡る古に思いを馳せる企画としました。

今回は折角の機会ですので南部市場の中の食堂で昼食をとることとしました。南部市場は来春中央市場に統合されるとの事で競りなどの市場見学は今回が最後の機会と考え見学を設定、午後の長昌寺では住職に法話を慶珊寺では本堂内の仏像を身近に拝観。その他の場所においては探訪実行委員会のガイド担当者により説明を実施。

当日は、晴れの特異日の通りの晴天、秋晴れの探訪日和となりました。

南部市場管理棟会議室9時集合、4班編成で第1班は会員14名ビジター1名・実行委員5名・計20名、第2班は会員17名・実行委員3名・計20名、第3班は会員16名・ビジター1名・実行委員3名・計20名、第4班は会員9名・実行委員4名・計13名で、先ず南部市場管理棟会議室で南部市場の説明ビデオを視聴しました。

続いて、南部市場運営課近藤（ちかふじ）さんの案内で第1班より順次班ごとに市場内の見学をスタートしました。花き棟で花の競りを見学しました（競りは大変速いやり取り

で手際よく行われていました）。バナナ棟では、輸入された鯉節のように固く青いバナナを見せていただき、この青いバナナをエチレングラスにて黄色くなるまで熟成し出荷可能にするとのこと、青果棟では低温輸送された青果物を低温室に直接入庫し鮮度を保ったまま競りが行われることの説明。水産棟では、通常の低温卸売場と超低温での冷凍マグロの競りが行われる超低温卸売場があり、超低温卸売場を覗き窓より見学しました（時間外の為暗くてあまり良く見えませんでした）。他に、魚を生きのままに入れておくいけすのための海水を貯蔵している海水供給施設及び場内から大量に出る発泡スチロール容器の再生処理をする発泡スチロール処理施設もありました。見学前に市場の内容を映像で視聴していましたのでわかりやすかったことと思います。

その後共栄会事務局の鈴木さんの説明のもと、関連棟（食品関連卸売センター）で各自思い思いの買い物を楽しんでいただき、市場食堂で各自予約した刺身定食、マグロ漬け丼、あなご天丼の昼食をとりました。昼食については、当初の段取りは、事前にテーブルに並べるということでしたが、食堂の親爺さんの出来立てを食べて頂きたいとの気持ちから、一品ずつお出しするというかたちに変更となり、この思いは良かったのですが、結

果的に皆様をお待たせする事となり申し訳無いことでした。探訪実行委員会として、皆様をご案内する前に食堂に出向き、準備状況を確認すべきであったと、大いに反省しているところです。済みませんでした。

12時00分より神社仏閣などを訪ねる午後の部を各班ごとにスタート。まず、旧海軍飛行艇格納庫を路上より眺めながらクツモ鼻から鴻ノ巣（宝龍寺鼻）のいろいろな説明をガイド担当者より説明させていただきました。

長昌寺では、石澤住職より1574年(天正2年)に小田原北条氏の家臣柳下豊後が亡き妻の菩提ために創建したこと、安房里見氏との戦いで阿弥陀様が奪われたが、安房の村ではたたりがおこり恐れて阿弥陀様が返却されたこと、90年前まで鳥見塚にあった芋観音が海軍基地建設の為別当寺であった長昌寺に遷されたこと、また400年前渾々と流れ出る小さな池から観音様が具現され、その池の中には不思議にも冬でも枯れない芋の葉が青々とし、池の水を飲むと、恐ろしい天然痘も軽くすんだといわれ、江戸時代から参詣者であられ今でも3月初旬の御開帳日にはご利益を求め終日賑わい、その時ふるまわれる里芋の煮ころがしは名物であること、豊島刑部重明の母の墓(墓の地蔵)、直木三十五のお墓と南国忌などのお話をさせていただきました。また、直木三十五関連の書物などを並べてくださり直接見ることが出来ました。

女体権現社、孫文上陸の地碑、東浜についてはガイド担当者より写真などで説明しました。

慶珊寺では、9月の学習会で「富岡と慶珊寺」について講演戴きました佐伯住職より今回は慶珊寺の仏像を見ていただきたいとの申し出があり、仏の順位の如来・菩薩・明王・天についての説明後に慶珊寺のご本尊の大日如来が鎌倉の仏師三橋永助作であること、また慶珊寺の代名詞になっている木彫りの11

面観音半跏像、愛染明王坐像のいわれ等についてお話ししていただき、各仏像を身近に拝観させていただきました。慶珊寺本堂内にはヘボンが滞在した時の旅寓札が掛けてありました。その後、直木三十五が一時住んだ家の入口に立つ「芸術は短く、貧乏は長し」の直木三十五文学碑、寛永5年に江戸城内で刃傷事件を起こし切腹し嫡男継重も切腹を命じられお家断絶になった親子の供養塔である豊島重明父子供養塔、米軍富岡空襲犠牲者供養塔をガイド担当者から案内しました。

慶珊寺の向いには以前海岸壁でその脇には松方正義別荘跡碑と十二天の鼻がありました。富岡尋常小学校跡地碑の説明後、ヘボンが家族と慶珊寺に逗留し、塩湯治として推奨したことで日本初の海水浴場となったことを示す海水浴発祥の地碑、昭和53年金沢地先海面埋立工事により消滅した富岡の漁業を記念して建てられた漁業記念碑(宮の前海岸跡)を写真も含め説明しました。さらに富岡八幡宮への上り口にある金波楼跡碑をみて富岡八幡宮に到着しました。

富岡八幡宮では、富岡八幡宮の起こり、祇園船・湯立神楽についてガイド担当者より説明させていただきました。

昭和21年2月に国務大臣金森徳次郎が旧家に籠もって日本語の憲法草案に仕上げた場所を示す日本国憲法起草の地碑を見学し、すぐ近くにある西宮神社(1191年に源頼朝が摂津国西宮神社の蛭子尊を勧請して創建されたが、のち八幡宮に替わった、旧祭神の蛭子尊を西宮神社に祀ったがのちに富岡八幡宮に合祀されたが小祠は現存)で最後の見学を無事終了しましたが西宮神社には小祠は現存しますが何の表示もなくちょっと寂しさがありません。

最後に15時頃富岡八幡公園にて今井代表より探訪終了挨拶にて全ての探訪行事を終了しました。(探訪実行副委員長 江口 記)



バナナ棟にて



ガイド風景

【アンケート結果】

たいへん良かった：25名 良かった：8名 普通：2名 つまらなかった：0名

【コメント】

- 長昌寺、慶珊寺のご住職の話を楽しく聞けて、仏像もまじかで拝観できて良かった(10)
- 南部市場の企画は良かった(7)
- 近くの富岡の歴史が分かって、一層郷土愛が生まれた(2)
- ガイド役の解説やレジメの説明がすばらしく、理解を深めた(6)
- 周到な準備の上での探訪、役員の皆様のご苦勞に感謝します(6)
- 身近な歴史にふれた大満足の日でした(1)
- 富岡は分からなかったので、目からウロコでした(1)
- 過去3度の探訪で、一番説明が分かりやすかった(1)
- 有意義で、非常に内容の濃い探訪でした(2)
- 晴天に恵まれ、気持ちよく歩けた(1)
- 南部市場の昼食がおいしかった(1)
- 歩き疲れました(1)
- 南部市場の期待は、今一つだった(1)
- 二寺のご住職の話はテーマを絞ったほうが良かったのでは(1)

# 「懐かしの映画」鑑賞録 No.16

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

〈鑑賞日：2014.7.28〉

レ・ミゼラブル Les Miserables

製作：2012年 イギリス

上映時間：158分

監督：トム・フーパー

原作：ヴィクトル・ユーゴー

作曲：クロード=ミッシェル・シェーンベルク

出演：ヒュー・ジャックマン、ラッセル・クロウ、アン・ハサウェイ

アマダ・セイフライド、エディ・レッドメイン、ヘレナ・ボナム=カーター

アン・ハサウェイ

その他：アカデミー助演女優賞（アン・ハサウェイ）

## （あらすじ）

時代は19世紀フランス。パンを盗んだ罪で投獄され、脱獄を重ねたため19年間投獄されていたジャン・バルジャン（ヒュー・ジャックマン）は仮釈放となるが、教会で再び盗みを働く。警察に捕えられそうになるが、司教の温情で救われ、その真心に打たれて、バルジャンは改心し、マドレーヌと名前を変えて市長になる。そんな彼の素性を疑うのは市長のもとで街の治安を与かる警部のジャベール（ラッセル・クロウ）で、バルジャンの行方を執拗に追う。バルジャンは薄幸の女ファンテーヌ（アン・ハサウェイ）と出会う。娼婦に身を落とし、病に冒された彼女から、テナルディ夫婦に里子にだした娘のコゼットを救ってくれと頼まれる。大金を支払ってコゼットを救ったバルジャンは、パリでコゼット

を大切に育てた。時を経て、コゼットは美しい娘に成長した。

1832年パリ。7月革命によってブルボン朝が倒れた後、フランスは立憲君主制に移行する。ルイ・フィリップの統治下で中産階級の暮らしが豊かになった代わりに、労働者階級や学生たちの間で不満の声が高まり、彼らは革命の機会を狙っていた。学生マリウス（エディ・レッドメイン）もその一人で運動を続けているが、街角で成人したコゼットと出会い、ひと目で恋をする。コゼットも同じ思いである。

一方、貧しい暮らしを強いられている人々の不満は一挙に高まり、蜂起の日が近づいた……。

(解説)

小説「レ・ミゼラブル」をベースに、作詩アラン・ブープリル、作曲クロード＝ミッシェル・シェーンベルクが全編歌で綴るかたちでミュージカル化した舞台版は1985年の初演以来、各国でロングラン記録を更新中で、世界43カ国、21カ国語に翻訳され、6000万人を超える観客を動員している。舞台のプロデューサーでもあるキャメロン・マッキントッシュが映画化を企画したのが1985年ころで、25年の歳月を経て、ようやく映画化がなされた。監督には『英国王のスピーチ』で2012年にアカデミー監督賞を得たトム・フーバーを起用し、厳格なオーデション

を経て、ヒュー・ジャックマン、ラッセル・クロウ、アン・ハサウェイ等の主要俳優を選んだという。監督のトム・フーバーはこの映画の撮影に革命的な手法を用いた。これまでのミュージカル映画は事前に録音した歌をテープで流し、俳優はいわゆるロパクで歌っていたが、この映画では舞台のように俳優が撮影現場で歌い、その生の声を同時録音するという画期的な手法がとられた。舞台で歌われた名ナンバーが全曲網羅されており、俳優達はこの過酷な要求によく応え、史上最高のミュージカル映画にしたのである。

〈鑑賞日：2014・9・22〉

**大鹿村騒動記**

製作：2011年 大鹿村騒動記製作委員会 上映時間：93分  
監督：阪本順治  
原案：延江浩「いつか情れるかな」  
脚本：荒井晴彦、阪本順治  
出演：風祭善（鹿料理店「ディア・イーター」店主）……原田芳雄  
風祭貴子（善の妻）……………大楠道代  
能村治（善の幼馴染み）……………岸部一徳  
越田一平（バス運転手）……………佐藤浩市  
織井美江（村役場総務課）……………松たか子  
重田権三（土木業）……………石橋蓮司  
柴山寛治（郵便局員）……………瑛太  
大地雷音（アルバイト）……………富浦智嗣  
津田義一（歌舞伎保存会会長、貴子の父）……………三国連太郎

(あらすじ)

風祭善は南アルプスの麓にある長野県大鹿村で鹿料理店「ディア・イーター」を営んで

いる。善は300年以上前から村に伝わる『大鹿歌舞伎』の役者である。定期公演を間近に

控え、仲間と練習に余念がない。そこに、18年前、善の幼友達の能村治と駆け落ちした善の妻貴子がひょっこり姿を現した。治は善に最近貴子の認知症が進み、治を善と間違えて「善ちゃん、善ちゃん」と呼ぶのもてあまして、貴子を返しにきたのだという。善は怒るが、結局家に泊めることとする。貴子は、記憶障害のため、駆け落ちしたことや善のことをすっかり忘れており、料理も満足にできない。

歌舞伎は【六千両後日文章重忠館の段】といい、大鹿歌舞伎のみに残る外題である。善は平家方のヒーローである悪七兵衛景清を演じている。景清の相方の道柴にはバスの運転手の一平が予定されていたが、台風による土砂崩れのため怪我をして出演できなくなった。窮余の策として18年前に道柴を演じたことがある貴子を代役で起用した。定期公演は、善と貴子の息の合った熱演により成功裡に終わった。二人の仲はよりがもどったかにみえたが……

### (解説)

長野県南部の大鹿村に300年を越して伝わる『大鹿歌舞伎』に魅せられた原田芳雄が、歌舞伎と人間との関わりを映画にしたいと奔走して実現した作品である。延江浩の原案をもとに、荒井晴彦と阪本順治が脚色し、阪本順治が監督した。

村人が大鹿村歌舞伎の準備に追われている最中に、18年前に駆け落ちした男女が戻ってくる。夫を加えての中年3人の三角関係と村人との交流がなんとも長閑で面白い。原田芳雄を中心に、現在の日本映画を代表する実力派俳優が揃い、伸び伸びと演技している。この映画の撮影は僅か2週間で終わったとい

う。それだけ、チームワークがとれていたのであろう。

主役の風祭善を演じた原田芳雄は2011年7月19日肺炎のため急逝した。『大鹿村騒動記』公開3日目であった。東京都出身。俳優座養成所を経て、1968年『復讐の歌が聞こえる』で映画デビュー。『反逆のメロディー』（1970）で型破りのアンチヒーロー像を確立した。以降、40余年にわたる俳優生活で、100本以上の映画出演を果たし、独特の存在感を発揮した。「大鹿村騒動記」が遺作となった。

〈鑑賞日：2014・9・22〉

### 第三の男 The Third Man

製作：1949年 イギリス

上映時間：105分

監督：キャロル・リード

原作・脚本：グレアム・グリーン

出演：オーソン・ウェルズ、ジョセフ・コットン、アリダ・ヴァリ

その他：1949年 カンヌ国際映画祭 グランプリ

## (あらすじ)

アメリカ、イギリス、フランス、ソ連の分割統治下にある第二次大戦後のウィーン。作家のホリー・マーチン（ジョセフ・コットン）は、親友のハリー・ライム（オーソン・ウェルズ）に招かれ、ウィーンを訪れたが、ハリーは直前に交通事故で死んでいた。

ハリーの葬儀後、国際警察のキャロウェイ少佐（トレバー・ハワード）は、マーチンにハリーが悪徳な闇商人だったことを告げる。真相究明に乗り出すマーチン。そして、ハリーの事故現場に素性の知れない第三の男がい

たという証言を得る。しかし、証人の門番が殺される。ハリーの闇ペニシリンによって多くの死者の出たことを知ったマーチンは帰国を決意する。その夜、マーチンはハリーの姿をみてしまう。ハリーは生きていた。正義感とハリーの恋人アンナ（アリダ・ヴァリ）への恋心からマーチンな少佐の指示でハリーを捕えるおとりになる。そして、地下水道に追い詰められたハリーはマーチンに撃たれて死ぬ。本物の葬儀の後、アンナはマーチンの前を振り返ることなく立ち去った。

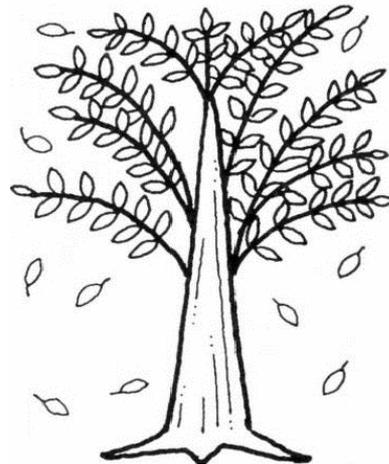
## (解説)

「第三の男」はキャロル・リードの代表作であるばかりでなく、モノクロスタンダード映画の中で映画史上不動の位置を占める名作である。それだけでなくサスペンス・娯楽作品としても多くの人に愛されており、文芸春秋などが主催する多くの映画人、著名人の選んだ「わが青春の映画」では常に1位か2位を占め、1950年～60年代に青春を過ごした人びとに圧倒的な人気を博している。

戦争による廃墟の跡が生生しく残っているウィーンの街が緻密なカメラワークでドキュメンタリー風に描かれる。暗闇の中で猫が足元の靴にじゃれつく。たまたま、開いたアパートの窓から洩れた光にハリーの不敵な顔が

浮かび上がる。夜の街に男のシルエットが巨人のように写り、それが風船売りに変わる。一つ一つの画面に光と影が交錯し、斜めの構図によって不安を与える映像は名画面の連続である。特にアンナがマーチンを無視して墓地の冬枯れの並木道を振り向きもせず立ち去るラストシーンは脳裏に焼き付いて離れない。

アントン・カラスによるチターの名曲は、画面に抒情とサスペンスを盛り上げており、常に映画音楽の上位にランクされている。カメラマンのロバート・クラスターは、この映画でアカデミー撮影賞を受賞した。



# 「浮雲俳句会」抄録 No.27

「浮雲俳句会」代表 北野 清市

## 《 俳句の表現技法 》(その2)

### 3 省略法

#### ① 本来の省略法

俳句では、文章の表現を散文的に完結させないため、記述の一部をしばしば省略している。なお、省略法とは、あるべき筈の言葉をわざわざ省き、すべてを言いきらずに、文章を終えることで、余情を残し、しかも、印象を強める表現技法です。

菜の花や月は東に日は西に 蕪村

菜の花が咲き 月は東に上り 日は西に 沈んでいる(28音の散文)

掲句では、掲句の次の行の散文の動詞が、すべて省略されています。しかし、空には月が昇り、西には太陽が沈みかけている風景が、容易に目に浮かんできます。

#### ② 切れ字による省略法

「や・かな・けり」の活用は、詩の表現技法の根幹です。そのうえ「や・かな・けり」の切れ字は、省略法の基軸でもあります。

古池や蛙とびこむ水の音 芭蕉

時は暖かくなった春の昼、草庵のそばの池に、蛙(かわず)の飛び込む音が聞こえてきました。これは〈古池や〉と、上五で休止があることによって、古池が大きく写し出されているわけです。

もしこの句が、「古池に蛙とびこむ水の音」であったとしたら、ただ水の音がしたという事実を述べるだけになります。

以下自選の句を、「や」「かな」「けり」から一句ずつ紹介しておきます。

うぐひすや安房を煙らす声曳きて  
江ノ島が浮きあがりたる卯波かな  
鎌倉の闇動かして藁(がま)鳴けり

### 4 擬音・擬態語法

擬音は、現実の世界の物音や声を、私たちの発音で写し取った言葉です。例えば「ほー ほけきょ」「がたがた」などです。これに対して、擬態語は、現実の状態を私たちの発音で、いかにもそれらしく写し取った詩です。例えば「ぺったり」「きらきら」などです。

因みに、先達の事例を五句紹介しておきます。

春の海ひねもすのたりのたりかな 蕪村  
鴨の嘴よりたらたらと春の泥 虚子  
かなかなのかなかなと鳴く夕べかな 敏郎  
雨の中雲雀ぶるぶる昇天す 三鬼  
がたと櫓崩れて夕べなりしかな 汀女

《81回例会 H26年7月27日》

〔 秀作 〕

天賞

青鷺のみじろぎもせず像のごと 好童

青鷺の習性を見事に捉えた秀作。〈青鷺〉は、さぎ科最大の鳥。体長1メートルほど、その飛ぶ姿・立ち姿に特徴がある。青鷺は留鳥で日本に一年中居続ける。

この〈青鷺〉。身動きもしないで、しかも、〈像のごと〉片脚立っているのである。〈みじろぎもせず〉〈像のごと〉と畳み掛けたリフレイン効果が抜群である。

地賞

利根川の夜風に傾ぐ月見草 一幸

利根川と月見草がよくマッチした佳句。〈利根川〉は、総延長322キロ。信濃川に次いで全国第二位の河川。坂東太郎の異名を持ち、日本を代表する河川の一つである。

〈月見草〉は、アカバナ科の越年草。高さ60センチ程、夏に大型4弁の白い花が咲き、萎むと赤くなる。夕暮れから咲き出し翌日の日中には萎む。太宰治は「富士山には月見草がよく似合う」と云ったが、利根川には月見草が似合うと云っても過言でない。

人賞

雨あとの蜘蛛の罫パールのネックレス

とも女

女性の観察力と想像力の妙を得た佳句。〈蜘蛛〉は軒先や木の枝の間などに、正確で巧みな形をした〈蜘蛛の罫〉を作っている。

掲句は、この〈蜘蛛の罫〉を〈パールのネックレス〉と捉えたのである。確かに、〈雨あとの〉〈蜘蛛の罫〉は、雨の水滴が幾何学的に綺麗に、恰も露のように光り輝いている。これをパールのネックレスと断定。しかも、オール名詞の体言止めでの確に描写している。

〔 特選 〕

大利根に仕掛けられたる鮎の築 祥代  
利根川は暴れ太郎や鮎走る 国眼  
利根川に連なり浮かぶ雲の峰 十九  
海の日やイージス艦を洗ふ波 一馬  
馬車道をつなぐパレード独立祭 岩介  
地震に逝く子に会ふ大祭恐山 二祥  
遠雷や陰を引き連れ近づきぬ 勇平

《82回例会 H26年8月31日》

〔 秀作 〕

天賞

水たたき命をつなぐとんぼかな 国眼

表現が平易で俳意の深い秀作。蜻蛉（とんぼ）は、晩春から晩秋までの長い期間見られる虫。だが昔から秋の季語になっている。肉食で昆虫を捕らえて食べる。種類が多く、130種もいるという。

水のなかでの生活が長く、幼虫は「やご」と云われている。それだけに殊更水との係わりが深く、水が生活の根源をなしている。

この点、掲句にあるように、〈水たたき〉〈命をつなぐ〉いでいるのである。まさに蜻蛉の生命の根源に迫る俳意の深さに感動した。

地賞

銀河濃し賢治遊びし大宇宙 一紀

兼題〈銀河〉を〈賢治〉とともに諷詠した佳吟。〈賢治〉は宮沢賢治。1896～1933年岩手出身。詩人・童話作家で『銀河鉄道の夜』は彼の有名な作品である。

この中に、「銀河ステーションを出発した列車は、三角標の美しく輝く天の野原を走ってゆきます。やがて、北十字を通り過ぎる少し前…」と、彼の〈大宇宙〉旅行の一端を垣間見ることができる。

人賞

嵐過ぎかすかに聞こゆ虫の声 好童

リアルな写実俳句。今年は大自然の異常現象が多発。広島を中心豪雨による土砂災害をはじめ、御嶽山の大噴火や台風被害などがあつた。

この点、台風すなわち〈嵐過ぎ〉、〈かすかに〉おそろおそろ〈虫の声〉が聞こえてきた

と、現実をリアルに写実した季節感ある佳句である。

〔 特選 〕

天の川父母の姿絵太く濃く 祥代  
 銀漢に聴く遥かなる時の音 十九  
 静ひのとぎれし黙の虫の闇 重九  
 虫の音を聴きつうたた寝二度三度 一椀  
 俳句歴いまだ十年秋の夜 勇平  
 遠望の六十九階終戦日 一馬  
 白波の弾けるしぶぎ秋の虹

とも女

《83回例会 H26年9月28日》

〔 秀作 〕

天賞

阿武隈川月も哀しや三年半 好童

震災回顧俳句。今月で「3・11東日本大震災」から三年半（みとせはん）。岩手・宮城はかなり復興したが、原発の被害のあつた福島は、まだ悲惨な傷痕が残っている。

これを福島県の中通りを、西の須賀川（栃木県境）から、郡山市を通り、福島市（宮城県境）まで、200キロほどを北流する〈阿武隈川〉に映る〈月〉に託して、〈哀しや〉悲しやと見事に諷詠したのである。

一つ〈錦〉を〈織〉るようにして達成したのである。

人賞

風の描く「八岐大蛇」芒原 十九

古事の追想俳句。八岐大蛇（やまたのおろち）は、頭も尾も8つある大蛇で、スサノオノミコトがこれを退治して櫛名田姫を救い、その尾から天叢雲剣を得たと伝えられている。作者は、芒原の上空に、〈風の描く〉〈八岐大蛇〉らしき雲を発見したのである。大変幻想的で、古事の神秘性までもが浮かんでくる。

地賞

秋爽や錦織圭の織る錦 一馬

スポーツの奮闘俳句。〈錦織圭にしこりけい〉は、去る9月上旬、アメリカで挙行された「全米オープンテニス」において、準優勝を飾った。テニスの世界4大会のシングルでは、日本人初の快挙であった。

数々の予選を不屈の闘志で立ち上がり、中には、1ゲーム4時間を越える過酷なセットが何回もあつた。

これは、日本人の世界に誇るに足る偉業であり、後に続く者の励みにもなるもので、一

〔 特選 〕

北流の阿武隈沿ひに早稲を刈る 一幸  
 粧ひたる安達太良映す阿武隈川 一紀  
 銀河の夜北上つづく阿武隈川 岩介  
 阿武隈の川原に集ふ芋煮会 重九  
 芒の穂くすぐり合ふてをりにけり 国眼  
 夕映えに火花を散らす芒かな とも女  
 かくれんぼ芒が原に人の影 一椀  
 摩尼ぐるま廻せば丘に大花野 勇平

# 「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 NO.7

## 「ふれあいの道歩こう会」代表 小俣 悦男

### 実施回数 100 回を達成

ふれあいの道歩こう会は平成 16 年 1 月 16 日に関東ふれあいの道神奈川コースの 1 番「三浦・岩礁のみち」を第 1 回としてスタートした。10 年 7 ヶ月の月日を経て、今回の独自コース 17 番コース「戦場ヶ原と刈込湖・切込湖」が 100 回目に当たる。実施直前まで日光湯元は降水確率 50% で実施が危ぶまれたが、7 月 31 日に行う 100 回記念行事が控えていることもあり、参加者の理解を得たうえで予定どおり実施した。幸いなことに天候は好転、17 日(木)は曇り時々晴れ、18 日(金)は曇りで一時小雨に遭ったものの悠然と聳える男体山、戦場ヶ原を彩る花々、刈込湖・切込湖のエメラルドグリーンの湖面の美しさなどに参加者は感嘆。お陰様で 100 回目として記憶に残る満足度の高い山行となった。

### 独自コース 17 番「戦場ヶ原と刈込湖・切込湖」

実施日(1 日目)：平成 26 年 7 月 17 日(木) 曇り時々晴れ

コース等：戦場ヶ原自然研究路ハイキング 歩行距離 約 8km 歩行時間 3 時間 10 分

参加者：16 名

コース所在地：日光市 日光国立公園

往路：横浜西口(天理教ビル前) (25 名乗り貸し切りバス) 7 時 20 分(発) ⇒ 竜頭の滝 11 時 00 分(着)下車。

コースタイム：竜頭の滝(準備運動) 11 時 15 分(発) ⇒ 戦場ヶ原自然研究路 ⇒ 湯滝 13 時 35 分(着) ~ 13 時 50 分(発) ⇒ 湯元温泉 おおるり山荘 14 時 25 分(着) (宿泊)

コース解説：戦場ヶ原は国立公園内にある標高約 1400m、広さ 400ha の高層湿原。地名は山の神がこの湿原を舞台に争いを繰り広げたとの伝説による。また、千畳ヶ原との説も。戦場ヶ原はこの時期、ホサキシモツケソウ・クルマユリ・オダマキ・ウツボグサ・ハクサンフウロ・アザミ・ギボシ・ハクサンチドリ・アヤメ・バイケイソウ・イブキトラノオ・ワタスゲ・ワレモコウなどの花が咲き乱れ、百花繚乱とは将にこのことか。また、竜頭の滝、湯滝とも水量が多くその素晴らしさを堪能。男体山や太郎山が戦場ヶ原の先に聳える素晴らしい景色に暫し見入る。

男体山夏の天空へ聳え立つ悦



竜頭の滝



戦場ヶ原から見た男体山

実施日(2日目)：7月18日(金) 曇り一時小雨

コース等：刈込湖・切込湖 歩行距離：約8km 歩行時間：4時間10分

参加者：16名

コースタイム：おおりの山荘(準備運動)7時50分(発) ⇒ 刈込湖9時22分(着)〈オレンジタイム〉  
9時45分(発) ⇒ 涸沼10時20分(着) 10時30分(発) ⇒ 山王峠10時58分(着) 11時05分(発) ⇒ 光徳牧場12時00分(着)

復路：光徳牧場(25名乗り貸し切りバス)12時20分(発) ⇒ 横浜西口16時30分(着)

**コース解説**：宿泊したおおりの山荘から5分、刈込湖登山道入口にある湯の平は湯元温泉の源泉があるところで、強い硫黄の臭いがたちこめ、湯槽には摂氏70度の熱い湯。湯元温泉の歴史は古く、1000年以上も昔に発見されたと伝えられている。刈込湖・切込湖への針葉樹木が鬱蒼とする山腹の道は上り坂ではあるが心が癒される。樹間からエメラルドグリーンの刈込湖・切込湖の湖面を見ながら行く眺めは素晴らしい風情である。また、涸沼の荒涼とした草原風景静けさに暫し眺め入った。なお、刈込湖・切込湖から光徳牧場へのコースは良く整備されており、道標も完備。

峠越え湖面に映える夏樹かな  
一悦



湯元温泉の源泉



刈込湖

### 独自コース18番「奥多摩人気コース棒の折山(棒の嶺)」

実施日：平成26年9月18日(木) 晴れ

コース等：奥多摩・棒の折山(棒の嶺)(969m) 歩行距離 約7km 歩行時間 4時間30分

参加者：16名

コース所在地：東京都西多摩郡奥多摩町・埼玉県飯能市

往路：東神奈川駅6:58発 ⇒ 八王子駅8:13発 ⇒ 拝島駅8:35発 ⇒ 青梅駅8:57発川井駅9:17着 ⇒ (タクシー片道10分)奥茶屋

コースタイム：奥茶屋10:05発 ⇒ 山ノ神10:37 ⇒ 棒の折山(棒の嶺)(11:43~12:20撮影・昼食) ⇒ 権次入峠12:36 ⇒ 岩茸石12:52 ⇒ 孔雀の滝13:49 ⇒ 白谷沢登山口14:15 ⇒ 有間ダム14:50 ⇒ 河又名栗湖入口バス停15:12着

復路:河又名栗湖入口バス停 15:37 発 ⇒ 飯能駅 16:28 発 ⇒ 石神井公園駅 17:12 発 ⇒ 横浜駅  
18:14 着

**コース解説:** 今回のコースは、約8年半前に歩いた、「関東ふれあいの道」の東京都最後の7番「山草のみち」と埼玉県の間「水源のみち」を繋いだコース。JR 青梅線の川井駅で下車、奥茶屋までタクシーを利用(約10分)。大丹波川を渡りワサビ田の脇を登り、杉・檜などの針葉樹林帯をほぼ2時間弱登りが続いた。棒の折山の山頂では奥武蔵や北関東の山々、都心方面が広く見渡せた。山中でシュウカイドウ、ツリフネソウ、ヤマアジサイ、ススキ、ヒガンバナなどの秋の花々に出会った。有間(ありま)ダムへの下りは権次入峠、岩茸石を経て白谷沢を下った。岩茸石からは小滝が連続し奇岩の迫る溪谷美のコースだが鎖場や滑り易い所が沢山あり、一步一步慎重に下山した。奥茶屋～棒の折山約2km登り高度差555m。棒の折山～河又名栗湖入口バス停約5km下り高度差737m。

秋日和穂  
やかに  
りて  
棒の嶺  
一悦

棒の嶺山頂からの奥武蔵や北関東の山々



この景色 だから山歩きは止められない



白谷沢 沢下りの鎖場 一步一步慎重に!

## 独自コース 19 番 「紅葉の栗駒山」

実施日(1日目):平成26年10月8日(水) 快晴

コース等:世界遺産 平泉の毛越寺、中尊寺を参詣。参加者15名。

所在地:岩手県西磐井郡平泉町

往路 東京駅 7:16 発[はやて111号]⇒一ノ関駅 9:30 着。一ノ関駅西口前 9:50 発[岩手県交通 バス]⇒平泉駅前 10:13 着。毛越寺 11:48 発[平泉巡回バス るんるん]⇒中尊寺 11:55 着。中尊寺 13:48 発[岩手県交通バス]⇒一ノ関駅西口前 14:10 着。一ノ関駅西口前 14:40 発[岩手県交通バス]⇒須川高原温泉 16:28 着(宿泊)

コースタイム:平泉駅前前でガイドと合流、平泉駅前 9:20[徒歩]発⇒観自在王院跡⇒毛越寺 11:35 着。(バス移動)中尊寺バス停 11:55[徒歩]発⇒中尊寺⇒中尊寺バス停 13:35 着(バス停付近で昼食)

**世界遺産 平泉の歴史：**平泉文化は、平安時代後期(11～12世紀)奥州平泉に陸奥の豪族藤原清衡を父として子の基衡、孫の秀衡のいわゆる奥州藤原三代がおよそ100年にわたって築いた文化をいう。清衡ははじめに中尊寺を建立し、次いで、釈迦堂や二階大堂、金色堂などを建立した。参詣する人々は極楽の世界を見る思いがしたと伝えられている。二代の基衡は毛越寺を建立した。三代の秀衡は、宇治の平等院鳳凰堂にならって無量光院を建立した。

**みどころ：**①平泉駅前～毛越寺までの街並。観自在王院跡。浄土庭園の舞鶴が池・毛越寺庭園(大泉が池)。毛越寺本堂。鑑水。庭園、池のスケールの大きさ、眺めの素晴らしさ。

②中尊寺；讚衡蔵(寺宝展示施設)の国宝・重要文化財等の仏教美術工芸品。そして何よりも金色堂の皆金色の美しさ、豪華さ。また、金色堂旧覆堂の建物の防腐対策、持ちの良さ。



毛越寺 大泉が池



中尊寺 金色堂

**実施日(2日目)：**10月9日(水) 快晴 栗駒山(1627m)登山。参加者 15名

**コース等：**登山口(須川高原温泉)～栗駒山山頂の標高差：513m 歩行距離：約13km

**所在地：**栗駒山は秋田県、岩手県、宮城県の3県に跨る

**コースタイム：**宿(須川高原温泉) 7:40⇒名残が原 8:27⇒苔花台 8:33⇒昭和湖 8:58～9:12⇒天狗平 10:09⇒天狗岩 10:15⇒栗駒山山頂 10:29～10:40⇒産沼 11:33～11:38⇒三途の川 12:25～12:36(昼食)⇒苔花台 14:58⇒名残が原 13:03⇒宿(須川高原温泉)帰着 13:27

**復路：**須川高原温泉 15:00 発[岩手県交通バス]⇒一ノ関駅西口前 16:33(16:26)着(登山・観光客が多く、バス1台増便)。一ノ関駅 17:47 発[はやぶさ104号]⇒東京駅 19:55(19:52)着。

**栗駒山：**安山岩でできた成層火山で活火山に指定されている。最近では1944年11月20日に小規模な水蒸気噴火を起こし昭和湖を形成した。初夏の山頂西側に馬の雪形が現れることから山名がついた。須川岳、大日岳とも呼ばれる。

**みどころ：**地獄釜(旧噴火口)、賽の碛、湯気山・浄土平(蒸気を噴く山頂)、地獄谷からの蒸気の噴き出しや硫黄臭、昭和湖(新噴火口)等の活火山の様相。天狗平～天狗岩～山頂までの尾根からの雄大な眺めと山頂の360°の展望のすばらしさ。

紅葉の時期に合致し全山良かったが特に苔花台からの紅葉は最高。また、紅葉した樹木を映す産沼の湖面、昭和湖の水の色、三途の川の清らかな流れ、名残が原のワタスゲの原など変化に富む自然の美しさ。



紅葉燃え栗駒山に笑みが満つ 一悦

栗駒山山頂(1627m)

掲載記事並びにコースに関わるお問い合わせは下記にお願い致します。  
 小俣 悦男 ○メールアドレス：e-omata@mx2ttcn.ne.jp ○電話番号：045-782-8147  
 定例概要に載っている写真は全て「わ」の会のHP「ふれあいの道独自コース」にカラーで写真が載っています。

## 「ふれあいの道歩こう会」通算 100 回達成

### 「ふれあいの道歩こう会」前代表 宮原 宏至

「よくもこんなに歩いたものだ」これが100回達成時の感想です。平成16年1月より毎月歩き、10年7ヶ月目の今年7月の奥日光「戦場ヶ原と切込・刈込湖」で丁度100回となりました。

最初の2年間は24回連続雨天中止なしという好スタートでしたが、3年目からは雨、風、雪、さらに東日本地震のトバッチリを受けました。歩くこと特に山の場合、自然を相手ですからこれは止むを得ないと同時に「安全第一」を考えれば悪天候で強行は避けるのが当然でしょ

う。ともかくもここまで大きな事故なしで来られたのは、運が良いと同時に会員全員が細心の注意で臨んだ結果と思います。

この100回達成を記念して、7月31日に桜木町で安全登山の研修会、パーティを行いました。初心に帰る意味で日本赤十字社にお願いして、「安全登山と救急手当て」の研修です。研修は最初の1時間は座学、次の1時間は応急手当て等の実習です。



**研修 座学**

山での事故の75%は登山によるもので、残りは林業等となります。登山の事故の内、54%が50～74歳の中高年です。事故の主な内訳は  
転倒 25%、道迷い 20%、病気(持病) 18.7%、滑落 13.3%です。

転倒などの場合は

1.意識の確認 2.呼吸の確認(通常12回/分) 3.脈拍の確認(15秒間) 4.手足等の痛みの確認等基本的なことを順番に行うことが肝心。

また、出血が多い場合、全血液の1/3(約1.6L)になると致命傷になるので、止血手当て



**研修 実習**

は必須。ケガの箇所は心臓より高くする。中高年齢者登山の場合、弱点はお金でカバー。たとえば荷物を少しでも軽くして、宿で購入。タクシー等乗り物のフル活用。毎月、山歩きをしても、気がつかなかった基本的な安全対策、応急手当など大変有意義な研修会でした。

研修会終了後はみなとみらいビル29階で記念パーティを全会員が参加して行いました。小俣代表の挨拶・乾杯の後、それぞれ懇談・・・あっという間の3時間でした。次の150回に向けてがんばりを皆で誓って解散となりました。



**100回記念パーティ**

# 「古文書を読む会」からのたより（4）

「古文書を読む会」代表 真田 雅行

## 満福寺に伝わる義経の「腰越状」

源義経が鎌倉の入口の腰越で元暦2年（1185）5月24日に記した書状といわれるもので、義経は壇ノ浦で捕えた平家の総大将平宗盛を伴い鎌倉に下ってきたが、頼朝の不興を蒙って鎌倉に入れなかったため、兄源頼朝の勘気を解くべく側近の大江広元に宛てて執り成しを依頼した時の書状の下書きといわれるものが弁慶筆として逗留した満福寺に現存している。

この腰越状は『吾妻鏡』（文治元年（1185）五月の条）や『平家物語』にも載っているが、記載に若干異なる所があり、終始従ったとされる弁慶も『吾妻鏡』では大物浦（だいもつのうら＝尼崎付近）の遭難、に登場する程度で、こうした書状を書くような人であったかどうかかわからないが、伝説としてはかなり古くからあるようである。

よく知られているように、頼朝や鎌倉幕府の重臣からみれば、義経は源氏の一族・頼朝の異母弟であっても有能な武将の一人に過ぎず、源平合戦勝利という軍功に比して評価は高いとは言い難く、一方頼朝の台頭をきらう後白河法皇の老獪な政略に翻弄されて頼朝の許可なく勝手に朝廷の検非違使・左衛門少尉任官を受けて頼朝の不興を買う等軍事戦術以外の力量が見出せない。むしろ頼朝は義経の存在を危険なものともなした。

又頼朝の家臣梶原景時との対立や讒言も頼朝の心証を害したであろう。

こうした状況下で頼朝は平宗盛など捕虜を受け取っただけで義経を鎌倉に入れようとはしなかった。

義経にとっては思いもよらぬことであつたであろう。

**「源義経恐れ乍ら申上げる意趣は、御代官の其一（一つに）撰ばれ、勅宣の御使として朝敵を傾け、累代弓箭（=矢）の芸を顕わし、会稽の恥辱を雪（すすぐ）。忠賞行なわるべき処に、思いの外虎口の讒言によって、莫大の勲功を黙（もだ）せらる。**

**義経犯すことなくして咎を蒙る。功有って誤り無しと雖も御勘気を蒙るの間、空しく愁涙に沈む。」**

これは「腰越状」の出だしの一節の読み下し文である（『吾妻鏡』は和風漢文）。ボヤきにもきこえるが、心情は切々と伝わってくる。おそらく兄頼朝に対して二心はなかったことは確かであろう。

結局東国を固めて武家政権樹立という頼朝の立場を理解し得なかったところに義経の不運があつたのであろう。

頼朝との面会はかなわず、失意のうちに京都に戻った義経は、逆に頼朝が遣わした御家人土佐坊昌俊に襲われた。弁慶等の活躍で難を逃れたが、これで気色を鮮明にして兄頼朝に反旗を翻した。

以後西国での再起を目指すのが、追求が厳しく、結局牛若の頃世話になった奥州藤原秀衡のもとへ落ちのびる。

静御前は捕えられ、鶴岡八幡宮の舞殿で舞わさせられた（実際は現在の「若宮の回廊」だったという）。其の上彼女が生んだ義経の男児は頼朝の命令で由比ヶ浜へ注ぐ滑川の河口或いは浜の東の飯島ヶ崎で殺されたという。

平泉での義経の不幸は、頼りの藤原秀衡が程なく亡くなったことで、彼の遺言「義経を頭（かしら）にして・・・」は、父の遺言に従い頼朝と戦うか否かに悩んだ息子泰衡の義経襲撃により、反故となった。

頼朝への恭順の証として泰衡が殺したのか、義経が自刃したのか不明であるが、義経は平泉で死んだ。

義経の首は鎌倉に送られたが、和田義盛と梶原景時の首実検の後に捨てられ、それを拾った土地の人々によって藤沢に埋葬された。

現在義経の首を洗ったとの伝承を持つ井戸と首塚が藤沢にあり、彼を祀り鎮守とした白旗神社が近くにある。

義経を攻め滅ぼした藤原泰衡は頼朝の寛大な措置を期待したのかも知れないが、頼朝は奥州征討のため自ら大軍を率い奥州合戦で大勝し、敗れた泰衡は斬首されて奥州藤原氏は4代で滅んだ。

現在中尊寺金色堂の下に藤原4代のミイラ遺体があるが、泰衡のそれは首だけである。

「満福寺」蔵 腰越状下書き（読み下し文）

前掲の文章があり、以下に続く。

情（つらつら）事の意（こころ）を案ずるに、良楽口に苦し、忠言耳に逆（さかう）先言なり。因茲（ここによって）不被糺讒言実否（ざんげんじつひをただされず）、不被入鎌倉中（鎌倉中に入れられざる）の間、素意を述ぶるにあたわず、徒（いたずらに）数日を送り、この時に当たって永く恩顔を拝し奉らずは、骨肉同胞の儀既に空しうするに似、宿運の極むる所か。将又（はたまた）前世の業因を感ずるか。悲しき哉（かな）。

此條亡父尊靈再誕を給うものに非ざれば、誰人か愚意の悲歎を申し披かん。何れの輩哀憐を垂れんや。こと新しき申し状述懐に似たりと雖も、義経身体髪膚（はつぶ）を父母に受け、幾（いくばく）の時節を経ず、古頭殿御他界の後孤子（みなしご）となり、母の懷中に抱かれ、大和国宇多郡龍門牧に赴き、以降一日片時も安堵の思いに住せず、甲斐なき命ばかりを存（ながらえる）と雖も、京都の経廻難治の間、諸国を流行せしめ、在々処々に於いて身を隠し、辺土遠国を栖（すみか）とし、土民百姓等に伏仕（ぶくじ）せられ、幸慶忽（たちまち）鈍熟して、平家の一族追討の為に上洛せしめ、手合わせに木曾義仲を誅戮（ちゅうりく）して後、平家攻め傾けんが為、或時は峨々たる巖石に駿馬に鞭うって敵のために亡命を顧みず、或時は漫々たる大海に風波の難を凌ぎ、身を海底に沈まんことを痛まず、骸（かばね）を鯨貌の鯰（けいぼう）のあぎと＝死骸を大魚に食われる覚悟）に懸く。加之（しかのみならず）甲冑を枕とし弓箭を受るを本意とし、併し（＝全部）亡魂の憤を休め奉り、年来の宿望を遂げしめるが外は他事なし。剩え義経五位尉に補任せられるの条、当家の面目・希代の重職何事かこれに如（しか）んや。然りと雖も今悲しみ深く歎き切なり。仏神の御助け非ずよりは争か（いかでか）愁訴を達せん。

これによって諸寺諸社牛王宝印裏を翻し、野心を挿（さしはさ）まざる旨日本国中大小神祇冥道を請（しょうじ）驚かし奉って、数通の起請文書き進ずと雖も、猶以って御宥免なし。更に吾が朝（くに）は神国なり。神は非礼を稟（うけ）たまわず。憑（たのむ）所他にあらず。偏に貴殿広大の御慈悲を仰ぐ。便宜を伺い高聞に達せしめ、秘計を廻らし、誤なきの旨を優ぜられ、放免に預からば積善の余慶家門に及び、栄華を永く子孫に伝えん。仍て年来の愁眉を開き一期の安寧を得ん。愚詞に尽さず、併し乍ら（＝一切）省略せしめ

候畢（おわんぬ）。諸事賢察を垂れ給う。誠恐  
誠惶謹言

元暦二年（1185）五月 日  
源義経

進上 因幡前司殿

源義経公御事  
代官其一番勅宣し侍使朝  
頭累代可為之候旨之被之  
辱可致行忠賞之候因外位等  
之謗言致然し堂々勅功為經  
托る家存隆之功を鑑蒙り  
之旨皇沈熱海傳業事之受  
蒙昔口史之并耳是意同  
不致礼謬云実質不致入候  
之同少難迷素意謹送致日  
此情和石守平思顔者骨肉  
控儀殿以之深望し以之  
權之威前等之案目如共式  
條亡之旨皇皇再送給去誰人  
申披懸念之此致何事意蒙  
憐乎鐔新中狀道似述懐哉  
經交身略懸慮控毎玉御寶  
時若古頭設淨儀系之月來疏  
子討捨母懐中赴大和國宮  
那能心致上降一日片時

重藏河事如式  
照源能切也自北佛神法地  
去常之途懸所依し諸法不  
牛玉寶中懸裏不揮及心  
之旨奉儀轉日中開平大  
神祇真名謹書通致通  
語文類公等所省地更書物  
沖國之神西粟北礼不獲非  
他傳依貴殿廣之清澄也  
同便真人連高例禮包秘計  
致儀之謹之旨公書史之極  
條慶及社等し永御業為  
子能似逐存卷之願肩也  
之安寧之旨皇皇同併し前  
儀年法事意蒙之旨  
誠惶謹言  
元暦二年六月日  
進上 因幡前司殿 源義経

\*平成 15 年学習会より

# パソコン何でも相談室【2】

「パソコンを使いこなす会」代表 林 洋

” Ctrl” キーを使った事がありますか？” このキーは、キーボードの最下段左端と右端の2カ所にあります。” Ctrl” は、Control の省略形で、言葉の通り操作を「制御」するキーです。

このキーは、Windows 以前のマウスのない MS-DOS の時代から使われており、このキー操作を追加することでパソコンを手早く動かすことができます。

今回は、” Ctrl” キーと特定のキーと一緒に押すことでできる操作について説明します。各項目の【 】内の文字・記号が特定のキーを表します。

## 1. Microsoft Office ・ Internet Explore 等

Microsoft が提供しているソフトに共通です。他のソフトでも同じ操作ができることがあります。確かめて見て下さい。

【A】：操作している画面のどこかをクリックしてから、” Ctrl” キーと” A” キーと一緒に押すと、全てのファイル、文字、セルが選択される。マウスのドラッグ操作より簡単です。

【C】：項目（文字、ファイル等）を選択してからこの操作をすると、その項目をコピーしてパソコンのメモリーに一時保管する。

【X】：項目を選択してこの操作をすると、その項目を切り取ってパソコンのメモリーに一時保管する。

【V】：パソコンのメモリーに一時保管された項目を選択した場所に貼り付ける。

【Z】：直前の操作を元に戻す。さらに押すとその前の操作を元に戻す。

【F】：文字検索バーが開く。検索文字を入力して文書中の文字列の検索ができる。

【N】：この操作をすると、新しいページやファイル・フォルダが開く。

【W】：この操作で、今開いているページやファイル・フォルダが閉じる。

【Esc】：” Ctrl” キーとこのキーと一緒に押すと、一気に[スタート]メニューが開く。

【マウスのホイール】：” Ctrl” キーを押しながら

ホイールを向こう側に回すと文字が大きくなる。逆方向に回すと文字が小さくなる。

【リンクをクリック】：ページに表示されたリンク（URL）を” Ctrl” キーを押しながらクリックすると、リンク先ページが開く。

## 2. Internet Explore

【E】：アドレスバーまたは検索バーにカーソルが移動する。ここにアドレスまたは検索文字の入力ができる。

## 3. Microsoft Office

【F1】：画面上段にあるリボンを一時的に隠す。もう一度押せば再表示される。

【H】：文字置き換え画面が開き、検索文字・置き換え文字を入力して文書中の文字列の置き換えができる。

【P】：開いている文書の印刷操作を開始する。

【S】：開いている文書を上書き保存する。

## 4. Word（カーソルの移動）

【Home】：文書の先頭にカーソルが移動する。

【End】：文書の最後に移動する。

【↑】：選択した段落の先頭に移動する。

【↓】：次の段落の先頭に移動する。

## 5. EXCEL（カーソルの移動）

【Home】：ワークシートの先頭セル（A1セル）に移動する。

【End】：ワークシートの最後のデータセルに移動する。

【←】：行（横）の左のデータセルに移動する。

【→】：行（横）の右のデータセルに移動する。データが無いと行の末尾のセルに移動する。

【↑】：列（縦）の上のデータセルに移動する。

【↓】：列（縦）の下のデータセルに移動する。データが無いと列の末尾のセルに移動する。

【D】：上のセルの内容をコピーして貼り付け。

【R】：左のセルの内容をコピーして貼り付け。

【;】：今日の日付を入力する。

【:】：現在の時刻を入力する。 以上

## 「土地宝典」から金沢区を眺める

中島 勇

今から5年ほど前に『新版かねざわの歴史事典』の編集委員の一人として参加した際に多くの担当項目の中に初めて耳にする「土地宝典」があり、いろいろ調べて行くうちに興味深い地域の記録である事がわかった。

「土地宝典」そのものの説明は会報・31号で熊谷 哲氏の執筆によって詳細に非常に分かり易く述べられている。又概要については『新版かねざわの歴史事典』にも掲載されているのでそれをご覧いただきたい。現存する『金澤町土地宝典』と『六浦荘村土地宝典』は昭和6年発行のもので、この2冊で現在の金沢区のほぼ全域を網羅している。

そこで現在の私達が住んでいる地域が昭和初期ではどのようなものだったのか、現在とどこがどのように違うのかを「土地宝典」から金沢区を眺めてみる。

『**金澤町土地宝典**』は現在の金沢町の地域ではなく、富岡、谷津、片吹、寺前、町屋、洲崎、泥亀、柴、長浜、平湯、大川の11地区をその範囲として、北は青砥から西は瀧、関ヶ谷、染井で南は野島、平湯、洲崎あたりまでである。現在の金沢区のほぼ半分がその対象となっている。

昭和初期にこの11の地区に住んでいたひとは総戸数970戸で総人口が5,599人、小学生児童数が950人となっている。総人

口に対する小学生の占める割合は17%であった。

現在はどうかと見てみると、同じ11地区の範囲に限定して調べると戸数は45,843戸で人口が104,598人となっている。(H25年3月現在)

これらを比較すると、昭和初期と現在とでは戸数で47倍、人口で19倍となり当時の1戸当たりの人数は5.7人であったが現在は2.3人となっている。

『**六浦荘村土地宝典**』は大きく分けて釜利谷、三分、峠の3地区から構成されている。現在の金沢区から前述の金澤町の範囲を除外した総てが六浦荘村とみてよい、北は金澤町に接し南は瀬ヶ崎の横須賀市境界まで西は鎌倉市境界までのかなり広い地域である。

ここでも昭和初期の六浦荘村全体での戸数は870戸で総人口は4,606人、小学生児童数が822人となっている。総人口に対する小学生の占める割合は18%であった。しかも驚くことに就学率が高く99.56%と記載されている。

現在はどうなっているかを見ると釜利谷、三分、峠の3地域は今の釜利谷東・西・南、瀬戸、大道、高舟台、六浦、六浦東・西・南、朝比奈、朝比奈東が該当範囲と考えられるのでこの地域で比較してみる。

現在の総戸数は 34,499 戸で総人口 78,280 人である。(平成 25 年 3 月現在)これを昭和初期と比較すると戸数で 40 倍、人口で 17 倍となり、当時の 1 戸当たりの人数は 5.3 人であったが現在は 2.3 人となっている。

小学生児童数は、金澤町 950 人と六浦荘村 822 人、全体で 1,772 人であることがわかる。

現在の金沢区全体ではその後の大規模埋立や住宅地域開発によって人口も増加して小学生児童数は 10,903 人で当時との比率は約 6 倍である。金沢区の総人口は 205,479 人なので人口では約 20 倍になっているにも拘わらず児童数の増加が 6 倍にとどまっている。

総人口に対する小学生の割合は当時で 17.4%であったのが現在では 5%であり、ここでも少子化の傾向を如実に物語っている。現在区内の小学校は公立校 22 校、私立校 1 校でそのうち明治 6 年創立以来の学校は富岡(小)、金沢(小)、釜利谷(小)、六浦(小)の 4 校である。

「土地宝典」から古い地名もわかる、今は使われなくなったものでもバス停や交差点、橋、歩道橋、公園などの名称に残っているものも沢山ある。記載されている主なものは以下の通りである。

富岡：クツモ、青砥、板橋、東、芋ヶ谷、小田、ハツ橋、前田、大谷、ヨマキ、堀口、三田、千丈、瀧、平原

金澤：稲荷谷、堀口、長濱、荻野、榎戸、関ヶ谷、小谷、行田、東山、西ヶ谷、亀木、染井、反町、称名寺、御所ヶ谷、一葉松、大澤、寺前原、西、東、上町、南町、町屋原、家津良、荒戸、濱町、洲崎原、平湯、田内、野島

釜利谷：瀧、野地久保、赤坂奥、赤井谷、赤坂、赤井前、御仲井、清水ヶ入、二本松、大塚、三本松、中ノ澤、金杉、白方、中州、地前田、宮ヶ谷、神明前、北谷、清戸、清戸奥、大丸、夏山、関ヶ谷、関ヶ谷奥、追越、澤木ヶ谷、坂本、宿下、小貫前、柿ノ木、小泉、小泉下、大小泉、白山道、白山道奥、

三分：大道、谷戸田、川、三艘、六浦、瀬戸、高谷、瀬ヶ崎、室ノ木

峠：耕地、鈴野、八澤、峠坂、内割、瀧ノ澤

古い地名の話になると鎌倉時代にまでさかのぼり、今の金沢区一帯は大きく四つの郷に区分されていて瀬戸明神社を有する六浦郷が最も古く次に平坦地の多い釜利谷郷が開け、次いで金澤郷、富岡郷となったようである。

「六浦」の地名をあらわすものは平安時代の『和名抄』の「鮎浦」だといわれている。その後「布久良」があり中世の資料に「六連」が使われ鎌倉中期までは「六連」が通用していた。「六浦」の用字は今から約 750 年前の文永 4 年(1267)に称名寺の開山に招請された審海の書状に「カガ」付きで現在の「六浦」の文字が出ているが、当時は外部の人には目なれない表記だったようである。

「金澤」という文字が初めて出てくるのは、金沢文庫の『伝法灌頂雑要抄』にあるのが

一番古いようで、今から約760年前の正嘉2年(1258)4月23日「武蔵国倉城郡六連庄金澤村云々」とある。

「釜利谷」については、鎌倉時代末期に現われている。今から約680年前の正慶1年(1332)2月16日に称名寺長老に出した『金澤貞将寄進状』の中に「武蔵国六浦庄富田郷、今者稱、蒲里谷 云々」とあり富田郷は釜利谷と呼ばれている事がわかる。その後の文書にも「釜里谷」「釜利屋」などが使われていた。

「富岡」は富岡郷として始めて記録に出てくるのは、今から約690年前の安達泰盛の孫である藤原貞泰が富岡八幡宮に寄進した『大般若経』第1巻と第600巻の奥書に「正中2年(1325)7月28日奉為・・・六浦庄内富岡郷八幡宮云々」とあり富岡が初めて出てくる。現在この『大般若経』は別当寺であった慶珊寺に納められている。

次に「土地宝典」の資料から金沢区の今と昔を面積で比較してみる。

「金澤町」：674町5反2畝(669ha)  
「六浦荘村」：1119町0反2畝(1,110ha)  
両地区の合計：1793町5反4畝  
(1,779ha)

現在の金沢区の面積は3,067haであり、埋立て等による増加で当時の約1.7倍である。

以上「土地宝典」から現在の金沢区を眺めて来たが歴史的には非常に短い、高々80年前の姿との比較ではあるが昭和・平成時代の流れの速さを感じる興味深い資料である。

もし機会があったら、県立金沢文庫の図書閲覧室へ立ち寄って複製版ですが2冊を手にとってご覧になって下さい。

#### 参考文献・資料

1. 『金澤町土地寶典』『六浦荘村土地寶典』・・・県立神奈川公文書館 蔵書
2. 『金沢と六浦荘時代』・平田恒吉 大正3年
3. 『武州久良岐郡地名考』・・・武内廣吉著 平山和彦編 平成7年 まほろば書房
4. 『図説かなざわの歴史』・・・金沢区役所 平成13年
5. 『新版かねざわ歴史事典』・・・“わ”の会 平成25年
6. 『土地を読むー土地宝典の世界ー』・・・県立神奈川公文書館 企画展資料 平成17年
7. 『金沢区統計要覧』・・・横浜市HP



# 行事予定

2014年12月～2015年2月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センターの略

	12月	1月	2月
学習会	なし	なし	2月14日 能見台CC 9:30～12:00 太田道灌と金沢 歴史研究家 盛本 昌広 氏
寺社を巡る会	12月4日(木) 集合：浄楽寺バス停 テーマ：横須賀西部佐島 訪問先：浄楽寺、十二所神社、淡島神社、天神島、福本寺、熊野神社、専福寺観音堂、他	1月9日(金) 集合：林バス停 テーマ：横須賀西部長井 訪問先：満宗寺、正住寺、林八幡神社、富浦公園、不断寺、長徳寺、勸明寺、他	2月5日(木) 集合：京急田浦駅 テーマ：田浦、追浜 訪問先：船越神社、景德寺、能永寺、深浦ポートパーク、観音寺、良心寺、浦郷陣屋跡
古文書を読む会	9:00～基礎講座		
	12月11日(木)金沢地区CC 9:45～12:00 宿村 布川家文書 12月25日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 絵島生島事件	1月8日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 永嶋家文書 1月22日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 ジョン万次郎帰朝記事	2月12日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 永嶋家文書 2月26日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 ジョン万次郎帰朝記事
ふれあいの道歩こう会	12月18日(予備日 19日) 104回=独自コースNo.21 スカイツリーと同じ高さの岩殿山 山梨県 大月	1月15日(予備日 16日) 105回=独自コースNo.22 新春の鎌倉を歩く 神奈川県 鎌倉	2月19日(予備日 20日) 106回=独自コースNo.23 伊豆半島の付け根 葛城山・発端丈山 静岡県 大仁・三津
懐かしの映画を観る会	12月8日(月)12:15～ 金沢CC ここに泉あり (日) 12月22日(月)12:30～ 金沢CC 007 ロシアより愛をこめて(英)	1月12日(月)12:30～金沢CC アーティスト (英) 1月26日(月)12:15～金沢CC 愛と哀しみのポレロ (仏)	2月9日(月)12:15～ 金沢CC ナイアガラ (米) ローマの休日 (米) 2月23日(月)12:15～ 金沢CC 華麗なるギャッピー (米)
浮雲俳句会	12月21日(日)9:30～ 金沢CC 第85回例会 テーマ 多摩川・木菟	1月25日(日)9:30～ 金沢CC 第86回例会 テーマ 運河・蠟梅	2月22日(日)9:30～ 金沢CC 第87回例会 テーマ 酒匂川・梅
パソコンを使いこなす会	12月2日(火) 金沢CC EXCEL実用講座 ー自動集計表ー 12月16日(火) 金沢CC WORD実用講座 ー書式設定ー	1月6日(火) 金沢CC EXCEL実用講座 ー条件付き書式・色付けー 1月20日(火) 金沢CC Windows実用講座 ー新規アカウントー	2月3日(火) 金沢CC EXCEL実用講座 ー入力支援ー 2月17日(火) 金沢CC WORD実用講座 ー配布資料ー
	9:30～12:00	9:30～12:00	9:30～12:00

連絡先: 学習会 785-1639(今井)

寺社を巡る会 784-1460(松本)

ふれあいの道歩こう会 782-8147(小俣)

浮雲俳句会 774-3878(北野)

古文書を読む会784-4900(真田)

懐かしの映画を観る 701-1606(佐藤)

パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記	発行日	平成26(2014)年11月8日
<p>前回50号お届けしました。区切りとして編集長より会報の歴史と現状と今後について披瀝しました。本日51号をお届けしました。我が会報は市内の生涯学習教育の会報の中でも高い評価をされており大変うれしく思います。(SK)</p>	発行月	4回(2,5,8,11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	大門 利晴
	編集委員	貝田 誠作 田中 徳明
		伊達 一雄 吉田 寿紀 相川 勲 金間 誠一 柴崎 幸治 鈴木 秀幸